

ハートマーク♥桜の記念植樹による地域貢献 ～新型コロナ禍での取組～

九州森林管理局 熊本森林管理署 森林整備官 濱田 祥吾
一般職員 ○大瀬 敦也
一般職員 ○塩澤 翔

1 課題を取り上げた背景

山鹿市にある横尾国有林内の伐採跡地が、市街地からハートマークに見えると地元テレビで取り上げられ話題になったことから、このハートマークの伐採跡地を活用して、新型コロナ禍で結婚式を挙げられなかったカップルなどに参加してもらい、ハートマークの輪郭部分に植樹してもらえれば一生の記念になると思い企画しました。(写真1)。



(写真1：ハートマーク遠景)

また、この場所が将来とも末永く山鹿市民や熊本県民から愛される場所になってほしいとの思いから、桜の記念植樹イベントをバレンタインデーの令和2年2月14日に開催しました。

2 取組の経過

イベント開催に向けたプロジェクトチームを署内に立ち上げ、開催日時や植栽計画など様々な検討を行いながら、地元の山鹿市や熊本県鹿本振興局に説明し理解を求めました。更に一般財団法人日本森林林業振興会熊本支部に後援を頂き、公益事業としての送迎バスの手配や看板・簡易トイレの設置等、経費の一部を負担してもらいました。

イベント当日は、公募により選定した31組62名のカップル、来賓、局・署関係者を含め総勢90名の参加のもと開催し、陽光桜を200本植栽しました。

実施した記念として、参加したカップルには森林管理署長名で植樹証明書を発行し、参加者からは一生の記念になったと喜ばれ、コロナ禍で暗いニュースが続いている中で、明るいニュースとしてマスコミから取り上げられました。

3 実行結果

今回の植樹イベントは、地元のテレビ、新聞、ラジオで紹介されると共に、林野庁でも過去に例がないブライダル業界紙に取り上げられるなど大きな反響を呼び、国有林野事業の取組をPRすることができました。

また、今回の植樹により、大きさ約2.1haと日本でも最大級のハートマークが出来上がり、山鹿市や熊本県民に愛される話題スポットとなるばかりでなく、日本全国の恋人たちの新たなスポットになることが期待されます。(写真2)

(写真2：看板前で記念撮影)



4 考察

今後においては、桜の成長に合わせ定期的な保育作業を行い、10年後を目途に桜の開花が市街地から見えるようになった際には、花見や写真撮影会等、この場所を活用した国民参加型のイベントを企画し、国民の森林として貢献できるように取り組む考えです。